
第一回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録:真紅



【自己紹介】

- ・ 自己紹介するとともに、懇談会に参加した動機、最近興味をもっていることもあわせて話し合ってもらった。

【地域のコミュニティづくり、区民参加に関して】

- ・ 町会活動も青年部長と呼ばれる方が還暦を過ぎている状況である。また、町会の仕事も特定の人に集中している。若い人、新しく転入してきた人の取り込み等が課題。
- ・ 若い方を初め、もっと区政に興味をもってもらえる仕組みづくりが必要である。
- ・ 地域に住む方の顔、状況を知っていれば、独居老人等への声かけも、自然にできてくるのではないかと。
- ・ 女性の参画方法について色々なアイデアがあるのでは。
- ・ 区民が目的を持って集まれる場所づくりが必要だ。
- ・ いかに情報発信をしていくか、その仕組みづくり(情報発信の目的明確化、戦略、媒体)が必要だ。
- ・ 再開発により既存のコミュニティが失われつつある。地域のコミュニティを大切に、防災、治安維持などについて、取組んでいく必要がある。



【福祉・介護に関して】

- ・ 要介護の方が、これ以上、要介護度が高まらないよう、地域コミュニティとしての支援の方法があるのではないかと。独居老人の安否確認や声掛けも考える必要がある。

- ・ 障害者福祉、バリアフリーなど区民の立場からもっと言えることがあるはず。

【まちづくり（ハード面）に関して】

- ・ 広域的な観点から導入機能を検討するなど、再開発を民間活力も活かして推進できると良い。区のまちづくりにおける特徴的な課題ではないか。
- ・ 転出した区民の再開発エリアへの呼び戻しが出来ると良い。ベッドタウン化していることを逆手にとってはどうか。財政も豊かになるのではないか。
- ・ 再開発は区民として何が出来るか難しい面もある。都市型観光をできるようにしては。
- ・ 地域特性による防災の関心度の差をどう縮めていくかが課題ではないか。

【基本構想を作成する際の留意点（盛り込む内容等）】

- ・ 基本構想の中に盛り込む内容には、行政の中だけでは考えつかないような事を区民として提言していく必要がある。
- ・ 基本構想の理念が、行政と区民で共有することが大切である。
- ・ 公共サービスを担う区民団体や民間事業者の役割があるのではないか。行政だけでは限界に達している。
- ・ 区と区民との関わり方、区及び区民の役割・責任も明記していく事が必要である。区の憲法を作成してはどうか。
- ・ 政策評価をする際に、政策ごとの区民のニーズを踏まえて評価をするような仕組みが必要であろう。

【その他】

- ・ 懇談会メンバーとして、個人名を出すこと、議事録の公開にメンバーが了承。
- ・ 小中学校の学級数など最新のデータにならないか。
- ・ 申込時に作成した作文をグループ内で共有化してはどうか。

【次回会議について】

- ・ 次回は、8月23日（火）19:30分より開催。
- ・ 今後の会議の日程は、火曜日又は木曜日の夜、土曜日で設定することとした。